

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度社会教育委員会（第1回）	
開 催 日 時	令和8年7月3日（金） 15：00～16：30	
開 催 場 所	宍粟市役所4階403会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	委員長：福田洋平	
委 員 氏 名	（出席者） 福田洋平、前野良造、大垣陽子、丸山記七郎、林幸一郎、土井景子、西中登美子、和田宗久、衣笠孝典 （委任状出席） 田中美由紀、平田新二、浅田和典	（欠席者）
事 務 局 氏 名	大砂部長 （社会教育文化財課）清水課長、宮辻館長、小西係長、松尾係長	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の 区 分 及 び 非 公 開 の 理 由	☒ 公開 ☐ 非公開	（非公開の理由）
報 告 事 項	（報告及び協議事項） ・令和8年度社会教育関係主要事業等について ・社会教育振興計画中間見直しについて	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	会議次第、第2期宍粟市社会教育振興計画（後期計画）素案 ほか	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 委 嘱 4 自己紹介 5 報告及び協議事項 (1) 令和8年度社会教育関係主要事業等について (2) 社会教育振興計画中間見直しについて 6 意見等 計画案の中に「リスキリング」や「アップスキリング」といった、あまり馴染みのない言葉が多く使われています。日本語にも難しい言葉がたくさんある中で、なぜこうした言葉が使われているのでしょうか。説明を受けても理解が難しく、計画を読み進める上でつまづいてしまいます。使用されている経緯について教えていただけますでしょうか。
事務局	これらの言葉は、兵庫県の計画に明記されており、県が重点的に取り組む方針を示していることから、本市の計画にも反映させたものです。ご指摘の通り、市民の皆様には馴染みが薄い言葉かと存じますので、計画の用語解説(素案39ページ)で意味を説明しています。アップスキリングは「現在の職業の専門性を高めること」、リスキリングは「新しい職業に必要なスキルを学び直すこと」を指し、これらを生涯学習として支援していきたいと考えています。
委員	計画素案21ページの「若者と一緒に」という項目について、前期計画から記載がありながら、あまり取り組みができていないとのことですが、今後どのようなことをされていくのか教えていただけますでしょうか。大学生なども含め、若者にはお金のことも含めて相談できる場所が少ないと聞きます。こうした場で中高生とつながる機会があれば、大学に進学してからも相談できる場所になるのではと思い、ぜひ力を入れていただきたいです。
事務局	ご指摘の通り、若者向けの取り組みは前期計画からの課題であり、まだ十分に進められていないのが現状です。そのため後期計画では、新たに「若者のアイデアを活かしたイベント、まちづくりワークショップの支援」という内容を加え、改めて若者向けの研修などに取り組んでいきたいと考えています。後期計画に基づき、今後具体的な事業を検討していきます。

委員	若者施策について、前期計画で実施できていなかったことに対し、後期計画でもまだ具体案がないという状況では、また同じように実施できないまま終わってしまう懸念があります。前期計画でできなかったからこそ、後期計画に入れるのであれば、早急に具体案を示すべきだと考えます。
事務局	承知いたしました。貴重なご意見ありがとうございます。
委員	自然と環境について意見する立場として、後期計画案を見ても、私たちの活動分野である自然・環境学習についての項目がなかなか入ってきにくいと感じます。歴史や文化については学習・展示場所の充実が明記されている一方で、自然・環境については未だに明文化が進んでいません。この計画は 10 年間の計画ですので、この場で具体的に計画に盛り込むよう、言い続けたいと思います。
事務局	計画素案 16 ページに「宍粟の豊かな環境や風土を学ぶ」と記載していますが、環境分野については、別途「宍粟市環境基本計画」が策定されており、そちらで詳細に定められているため、本計画では一部の記載に留めております。ご理解いただければと思います。
委員	関連して、私はこの数年で宍粟市内に生息する昆虫の標本を約 2,000 種集めました。中には兵庫県で初記載の昆虫や、宍粟市由来の名前がついた昆虫も含まれています。しかし、個人での保管場所に限界がきており、市に寄贈できる場所があればと考えています。もし展示などが可能であれば、子どもたちが環境に興味を持つきっかけになるのではないのでしょうか。寄贈先がなければ、県立人と自然の博物館や伊丹市昆虫館に委託することも検討しています。
事務局	自然の動植物だけでなく、民具なども含め、市には数千点の寄贈品がありますが、常設の展示スペースがないのが現状です。一部を庁舎フロアで一時的に展示することは可能ですが、昆虫標本となると防虫・乾燥などの維持管理も必要となり、恒常的な保管・展示は難しい状況です。市の施設建設には優先順位があり、現在は給食センターの建て替えが最優先となっています。博物館・資料館といった施設の優先順位は、現状では低くならざるを得ません。廃校活用も探っていますが、なかなか厳しい状況です。
委員	文化財の甲冑なども素晴らしいものがたくさんあるのに、蔵に眠っていると聞きます。そういったものを展示する場所を、例えば廃校などを活用して作ると

委員	いう方向にはならないのでしょうか。 他市では廃校を水族館にした例もあります。昆虫に限らず、市に一つは文化的な博物館があるべきではないでしょうか。例えば、地域おこし協力隊にプロジェクトを任せ、廃校を活用して宍粟市ならではのものを発信する基地のような場所を作ってはどうかと思います。
事務局	ありがとうございます。廃校活用については、そうしたご意見があったことを関係部局に伝え、提案させていただきます。
委員	数値目標の見直しについて、現状を踏まえ、実現可能な数値に変えていくことは必要だと感じます。ただ、目標値が少しずつしか上がっていないものもありますが、この上げ方に基準はあるのでしょうか。
事務局	目標値は市の総合計画とも連動しています。例えば生涯学習受講者数は、令和 2 年度の現状値が 885 人でしたが、コロナ禍からの回復の遅れや高齢者の就業率上昇などにより、令和 7 年度の現状値は 453 人と大幅に減少しています。この実態に即して目標値を下方修正し、そこから少しずつ上げていくという考え方で再設定しています。この徐々に増やしていくというのは前期計画から変えていません。
委員	芸術文化施設の入場者数（計画素案 30 ページ）の目標値が、申し訳程度にしか増えていません。この数値はコロナ禍前と比較すると 3 割ほど落ち込んでいるはずで、これでは「もうこれ以上は増えない」と言っているように見えます。また、市指定文化財の件数目標も毎年増える設定になっていますが、文化財指定されていくと、だんだん網羅されて減っていくものではないのでしょうか。この目標設定は実態に合っているのでしょうか。
事務局	おっしゃる通りです。入場者数については、コロナ禍前の水準（平成 30 年：96,611 人）に戻るのとは不可能に近いと判断し、実現可能な数値へ下方修正しました。文化財件数も、毎年指定候補が上がるわけではないため、元々の計画の最終目標（131 件）は現実的でなく、苦しいながらも達成の可能性がある数値としています。
委員	現実に合わせては理解しますが、それであれば「前期計画ではこうだったが、現実はこうなっている」という比較を示した方が、課題が明確になって良

	いのではないでしょうか。
事務局	承知いたしました。前期計画の数値と今回の現状値の示し方について、書きぶりを検討します。
委員	「若者の挑戦」「地域クラブ活動」「廃校活用」といった施策をバラバラに考えるのではなく、一つにつなげて考えてはどうでしょうか。例えば、廃校などを活用した拠点を作れば、そこで若者がイベントを企画したり、部活動を行ったり、市の保管資料に触れたりすることもできます。新しい箱物を作るのが難しいのであれば、今あるものをどう活かすかという視点で、点在する取り組みを一つにまとめていくべきです。
事務局	ありがとうございます。若者施策と廃校活用などを連携させる視点について、持ち帰って検討させていただきます。
委員	以前、木育について質問した際、地域振興課、森林環境課、教育委員会と担当が分かれ、連携が取れていないという課題を指摘しました。今回も環境の話題で「担当課が別にある」という話がありましたが、このように所管が分散していると、結局誰も責任を持たず、物事が進まない体制になっていないか懸念しています。市民が何かをしたいと思った時、どこに相談すればいいのか、市としての窓口を分かりやすくシステム化してほしいです。
委員	計画素案 27 ページに「魅力を伝える担い手として活躍できる環境づくり」とありますが、担い手になりたいと思ったら、どこへ行けばよいのでしょうか。そうした窓口があれば、意欲のある人が集まり、アイデアが形になるかもしれません。
委員	「夢を語って終わり」ではなく、市民が「自分に何ができるだろう」と思った時に、どこに行けばよいのか、その相談窓口を計画にきちんと設定していただきたいです。
事務局	ご意見ありがとうございます。社会教育や文化財に関するご相談であれば、私ども社会教育文化財課や、各市民協働センターにご連絡いただければ対応いたします。内容が分からない場合でも、市役所の代表番号にご連絡いただければ、担当課へおつなぎします。ただ、ご指摘の通り、社会教育の分野は幅広いため、担当が複数にまたがることもあり、分かりにくい点が

	あることは課題と認識しております。 7 その他 事務局より事務連絡、今後の予定ほか。 8 閉 会 委員長 1 6 時 3 0 分 終了
--	---